

赤外線センサーカメラを用いた行動観察で イノシシを効率的に捕獲

農作物に被害を及ぼすイノシシは、箱わな（箱型の檻）を使い、エサでおびき寄せて捕獲します。箱わなを設置する場所やエサの置き方はイノシシの足跡などの痕跡から行動を推測して決める熟練の技であり、初心者ではうまくいきません。

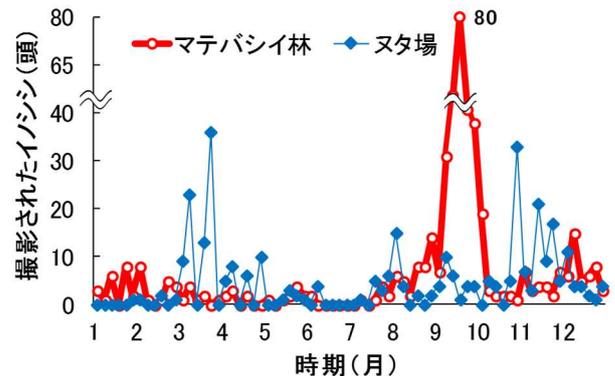
そこで、捕獲に役立つ情報を得るため赤外線センサーカメラの利用を試みました。その結果、カメラ映像に基づきイノシシの出没場所の把握、箱わなの中へおびき寄せるエサの置き方などを工夫することができ、初心者でも効率的にイノシシを捕獲できるようになりました。

1 成果の内容

- (1) 赤外線センサーカメラの映像により、イノシシは又タ場（イノシシがダニや寄生虫や汚れなどを落とすための泥浴びの場所）では1年を通じて出現し、マテバシイ林では好物のドングリが多い秋に多く出現するなど、季節によって出現場所が異なることが明らかになりました。



カメラがとらえたイノシシ



マテバシイ林と又タ場に設置したカメラから
わかったイノシシの出現パターン

- (2) イノシシの出現場所を把握できれば、適切な箱わなの設置場所を決めて捕獲することができます。
- (3) カメラ映像でイノシシの行動を確認しながらエサの置き場所を変えることで、警戒心の強いイノシシを箱わなの中へ誘導することができ、一基の箱わなで11~2月の間に12頭を捕獲することができました。

2 普及の状況

平成26年以降に各市町において赤外線センサーカメラが広く導入され、主に捕獲従事者などに貸し出しされています。また、最近は価格2万円程度で、操作の簡便な商品が開発されており、捕獲従事者自らが購入して使用する例も多くなっています。

3 問い合わせ先 千葉県農林総合研究センター

暖地園芸研究所 生産環境研究室 0470-22-2603(代)

4 掲載年月 平成30年1月(令和3年3月更新)